

# シート活用の基本的な考え方と使い方

認知症高齢者の行方不明者数が増加するなか、2016年3月1日に、京都市「認知症高齢者の行方不明時における早期発見に関する連携要領」が運用開始されました。「いなくなつてから捜す」システムの充実に取り組むことは今後も重要課題ですが、同時に「いなくなる前の備え」が必要になります。

2014年度に実施した「おでかけ安心事業」において北区上京区のケアマネジャー対象に行った実態把握をもとに、「おでかけ安心事業Ⅱ」では、「ケースごとの行方不明への備え」に特化したアセスメントシートを開発しました。行方不明の原因は、様々です。今後の行方不明に備えて、本人にとって落ち着く生活、利用者の望む生活の実現のために安心した外出を支援するためのアセスメントツールとして、カンファレンス、地域ケア会議、サービス担当者会議などで、関わる人みんなで本シートを活用してみてください。

## シートの特徴と記入のポイント

行方不明の原因に特化した、①～⑤の5つのカテゴリーをとりあげ、さらに細かい項目をあげています。①から⑤を把握することで、⑥で行方不明になる原因と行動予測→その対策や役割分担を導くように構成しています。



### ①本人の言葉、思い・習慣、出かけたい思い

本人の言葉をあげてみましょう。言葉がうまく出ない方の場合は関係者とともに情報を出しあい、本人の様子や行動などから想像して記入してみましょう。



### ②健康面の気づき

医療情報を記入します。※専門医の受診、連携も意識しましょう。



### ③生活状況、周辺環境、活動、心の状態

本人にとってその項目が充分に満たされている状態か、不快なものではないかを1～5の程度で判断し記入します。

あくまでも本人の視点であり、介護者や支援者の視点ではありません。

例えば、三度の食事を毎回しっかり摂っていて、周囲としては充分食事量は足りていると認識している間でも、本人に空腹感が毎日のようにあるならば、空腹感が5「よくある」となります。

### ④認知症特有の症状

中核症状の程度を把握します。場所の見当識障害が進んでいる場合、家の前であっても場所が認識できず「一体ここは何処なのか…」と、知っている道を探しているうちに行方不明になってしまう場合があります。日常生活上に起こっているエピソードを挙げて「常時わかる」「時々わかる」「わからない」を関係者で判断します。



### ⑤その他（①から④以外）の課題・問題点

例えば、経済的課題や家族の疲労など。

### ⑥おでかけの原因や今後の行動の予測・対策とそれに必要な支援者

①から⑤を埋めていくと、おでかけに関連しそうな気になる事柄が挙がってきます。その項目についてチームで原因や課題を分析します。その原因や課題に対して、支援方針や対策・役割分担について話し合いケアプランに結びつけていきます。

シートは、名称のとおり **ケアマネジャーや支援者が一人で記入するものではありません。** 情報が不十分で、シート項目を埋められないこともあります。カンファレンスの場を活用するなどして、**関係者みんなから情報を収集しシートを埋めていきましょう。** サービス担当者や家族、インフォーマル支援者を含めた多くの関係者で情報共有することにより、具体的で正確な情報が得られ、効果的に「行方不明への備え」のツールとして、チームで活用できるものとなります。

※シートを同じケースで繰り返し使用し、以前記入したものと比較することで、おでかけの理由・リスクの変化、その時に必要な援助などが見えてきます。